

小学校は

エンピツの

匂い

東京学芸大学 附属
小金井小学校 同窓会

撫子の会

会報 8号

● もくじ

- 1 倉本總氏 母校講演
- 2 母校からメッセージ
- 3 第五回総会報告
- 4 集まりました

北海道で考える



脚本家・倉本總氏 母校で講演

(父母の会主催)

の学童疎開を経験されました。親元を離れることの寂しさや疎開先で地元の強い生徒に守ってもらったことなどをユーモアを交えながら語って下さいました。

倉本氏が富良野へ転居された当時はまだシナリオライターへの理解度が低く、奥様は地元の人たちから「ご主人の仕事は製造か販売か？」と聞かれたそうです。それに対する奥様のお答えは「両方を一人ですべてします」でした。

また、形が悪い等の理由で生産量の四割ほどの人参が捨てられる富良野で、人参を店で買うべきか拾うべきかで迷われた倉本氏のエピソードには会場が大いに湧きました。

倉本氏が東京、札幌を経て富良野へ転居されたのはプリミティブな生活を目指されたためで、「自分では出来ぬことは自分でする」が目標でした。

都会の生活では自分には出来ないことを他人に頼み、やがては自分で出来ることまで頼むようになってしまいます。このような「依頼」の生活をしていると人間が本来持っている消費エネルギーを使わなくなり、代わりに石炭や石油を利用するようになって、それが地球の「高温暖化」を招くと倉本氏は言われます。「温暖化」ではなく「高温暖化」だと強調されていきました。

富良野には熊が多いので、移ったばかりの頃は熊が非常に怖かったそうです。でも、地元の人たちに

二〇〇六年十一月三日(金)、母校体育館においてPTA主催の講演会が開かれました。

脚本家の倉本總氏が「北海道で考える」というテーマで一時間半の講演をして下さいましたが、約三百名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

講演会に先立ち、校長室で倉本氏、大竹校長、小林副校長、金子会長・藤田前会長を始めとする「撫子の会」役員数名が懇談しました。倉本氏も豊島小のご出身で、しばし昔話に花が咲きました。

午前十時半、大竹校長のご挨拶で講演会が始まりました。

倉本氏は昭和十六年に入学され、在学中に山形へ

よれば、この辺の熊は気立てがいいので無関心でいれば何もしないようです。

熊の次に恐怖を感じたものは「お化け」とのことですが、これは闇への恐怖が根源にあるため、倉本氏は今でも闇が「一番怖いとおっしゃっていました。

ところで、「北の国から」は「都会の人間をアスファルトではなく土の上に連れて行ったらどうするか？」という倉本氏の発想から生まれました。

最初は田舎の生活に戸惑いもあった吉岡秀隆くん（純）と中嶋朋子さん（螢）でしたが、カラ松で柵を作る際、いきなり知識を与えず四十分間試行錯誤の時間を与えたことで感激し、作業もそれまで以上に長続きました。

詰め込まれた「知識」より「知恵」の方が大事で、「知識」作、「知恵」創、そして「創」は感動をも生むものなのです。

また情報は五感で受け止めることが重要だが、最近の子供に対して危険だからと言って何でも禁止する風潮があると話されていました。

「北の国から」終了後、あまりに反響が大きかったため、倉本氏は俳優・シナリオライターの養成を注意されました。

四百万円を元手に離農した土地を借り廃屋を建て直して富良野塾開講を目指しました。受講料が無料の代わりに at your own risk（自己責任）とし、決して借金をしないと決められたそうです。

初年は十五名の若者と共にスタートしましたが、当時は現在よりかなり気温が低く、食料が凍らないよう冷蔵庫に入れたそうです。

先発の四名は資金がない中、「どうしたらよいか」と自ら考え、様々な工夫を凝らして富良野での生活を始めました。時には捨てられた野菜を拾うこともあり、その生活ぶりは弥生式というより縄文式の採

取生活のようだったと倉本氏は笑いながらおっしゃっていました。

また、礼儀を知らず挨拶が出来ない塾生も多かったそうですが、高倉健氏を引き合いに出したところ効果は絶大だったと苦笑されています。

倉本氏はさらに水の大切さと、その水を貯える葉の役割について語られました。

酸素を吸って二酸化炭素を出す人間がその逆の植物と共生していることや、文明が不毛の地を増やしているという実感についても言及されました。そして、力を注がれている森づくりの一環として富良野での植林を強く希望されていました。

入熟式が行われる四月六日には一日中電気等のエネルギーをカットするのですが、翌日には太陽の光の有り難さを改めて実感するそうです。

最後に倉本氏は、身体に心がついて来ているかを考えてみようと呼びかけられました。

講演後、花束贈呈とPTA会長からのお礼の言葉があり、盛大な拍手の中、倉本氏は退場されました。

報告者 高木織江（監事）

倉本聡氏のプロフィール

昭和十年一月一日生まれ。

昭和二十二年 豊島小（国民学校）卒業。

麻布中学校・高等学校、東京大学文学部卒業。

ニッポン放送プロデューサーを経て脚本家となる。

若手演劇人の養成のため富良野塾を主宰。

タバコとコーヒー好きは有名である。

主なテレビ作品には「前略おふくろ様」「北の国から」「昨日、悲別で」「優しい時間」等がある。



（左から）金子新会長・大竹校長・小林副校長・倉本氏・藤田前会長

母校からごあいさつ

校長 大竹美登利

東京学芸大学のキャンパスは、今、紅葉が真っ盛りです。今日は、ハクビシンが銀杏の木の上に登ってなかなか降りて来られず、カラスに取り囲まれて、困っているところを副校長が見つめました。少し、騒動になりましたが、結局、自分で木を降りて、別のところに行ってしまった。こんな、自然にあふれた大学のキャンパス内を、小学校と研究室の間を自転車で行き来しながら、楽しんでいきます。

ある時、本校の2年生が、大学のキャンパス内で、ドングリや松ぼっくりなどを拾っていました。生活

科の秋探しの学習だったようです。思わず、子どもたちのそばに行き、何が拾えたかと、見せてもらいました。本校の子どもたちは、大学の中で、こんな自然に恵まれ、その中で学習でき、幸せだなと思いました。同時に、私も、子どもたちと自然を楽しむ幸せを楽しんでいます。

ある時、私と同じ建物にいる理科教育の先生が、本校の4年生の4つのクラスの理科の授業をしていました。小学校の校舎から抜け出し、研究室の建物の前での授業をしていたのです。研究室の前が少しにぎやかだなど思っていたのと、本校の子どもたちで、私も思わず、そばに行き、一緒に授業を受けてしまいました。木の葉と同じ形をした、少し大きめの模型を作って、少し高いところからとばし、種が広がって行く仕組みを学んでいました。

また、金星食を子どもたちに見せてくれるために、大学の地学の研究室の先生と学生が繰出で、朝から、望遠鏡を担いで、小学校の校庭に来てくれたこともあり、太陽の前を金星が通り過ぎる肉眼では見えない様子を見ることができました。その時、私は、はじめて、太陽の黒点を見ることができました。

このように、大学の先生が時々、本校の子どもたちに教えるに来てくれます。担任の先生とは違った授業を展開してくれて、子どもたちは楽しい発見を味わっています。大学のキャンパス内にある良さを、子どもたちは満喫しているようです。皆さんも、こうしたすばらしい環境の小学校で学ぶ楽しさを味わいに来ませんか。お待ちしております。



母校はいま

副校長 小林道正

十二月の校庭を眺めると、三角錐のセコイヤの木がひときわ高くそびえ立っています。そして、その左側に「豊島の銀杏」が黄葉しています。いつまでも変わらない風景です。

小金井小学校は今年で創立九十五年・開校四十五年になりました。いつまでも変わらない伝統と時代と共に変化するところが調和して発展し続けてきました。

変わらない伝統の代表に至楽荘生活と一字荘生活があります。鶴原湾で黒潮の波を乗り越える子ども達の姿は今も変わりません。遠泳中「エイ、コーラ！」の呼びかけに大声を張り上げて応えます。帽子の番号を呼ばれて、高々と手を挙げて返事をします。水泳主任の先生が乗った船を先頭にして、長い列が鶴原湾の中で弧を描きます。子ども達はこの鶴原湾で心と体を鍛えてきました。一字荘は約五十年前に箱根から長野県茅野市に移りましたが、山登りや野外活動で自然に親しみ、心と体を鍛える活動は変わりません。

もう一つ変わらない伝統に「制服」があります。豊島と追分の制服のどちらなのかはつきりしないところがありますが、制服は変わることなく続いています。中央線の電車に乗っていて、昔と変わらない制服に出会い、「懐かしい」と思う人も多いようです。しかし、電車の中でついつい騒いでしまうことも、今も変わらない伝統?のようです。そのような「悪ガキ」を見かけましたら、その場でご指導いただくようお願いいたします。

「苦情の電話」をいただくのも変わらない伝統?の一つかもしれません。しかし、最近「マナーが

悪い。走り回って危険。」といったご注意だけでなく、「仲間はずれにされていた。いじめられていた。」といった情報をお寄せいただくが増えました。学校の教員だけでは、目の届かないことなので、すぐに対応できない面もありますが、できるだけ子ども達の指導に活かすように努力しています。

いじめについての相談が増えています。先日、幼稚園の先生からこんな話を聞きました。例えば、三歳児が砂場遊びをしていたところ「入れて。」と仲間に入ろうとしたら「シャベル持っていないからダメ!」と言われたことを「うちの子は〇〇くんからいじめられている。あんな子は幼稚園にいるべきではない。」と苦情を言うてくる母親がいたそうです。あまりにも過剰反応しすぎるのは困ることだと思います。子どもは成長過程でいろいろなことを学びます。人と人との関わりを学ぶ過程を長い目で見守ることも大切なことだと思います。

小金井小学校で六年間の生活を過ごして卒業した皆さんは約七千人になります。豊島小学校と追分小学校の卒業生を加えると一万五千人にもなります。多くの卒業生が小金井小学校を母校と思い、いつでも懐かしい母校を訪れることができるような学校で有り続けたいと願っています。担任だった先生が「よく来たね」と出迎えることができれば、懐かしさは何倍も大きなものになるのでしょうか、なかなか難しいところもあります。昔の先生がだんだん少なくなっても小金井小学校は皆さんの学校です。皆さんのご来校をお待ちしています。

校庭の豊島の銀杏



平成十七年十一月開催

総会報告

副会長 川田紀雄

平成十七年十一月十九日午後小金井の母校において第五回総会が開催されました。

議事のポイントを列記します。

・平成一四年から、四年に渡って会長職を引受けていただいた豊島一九年藤田暉夫先輩が退任され、追分昭和二五年 金子修也先輩が後任を引受けて下さいました。藤田会長は学校と同窓会との距離をなくし、機会あることに交流を進め、協力して行動できる態勢を作ることに力を注がれました。

・役員定数の改訂が行われ、副会長一名が二名になりました。これは小金井の人材をいよいよ活動の中心に据えていくための布石です。

・現在、会費は小学校卒業時と同窓会入会時に終身一時金として二、〇〇〇円をお願いしていますが、これを一〇、〇〇〇円に変更します。新会員には負担ですが、これによって確実に使える年間財源を確保し、ホームページ等の広報、連絡ツールを有効に利用していくためでもあります。以下に新役員を列記します。

- 理事
- 追分昭和二五年卒業 金子 修也 (会長)
 - 小金井昭和三九年卒業 佐々 智樹 (副会長)
 - 小金井昭和四一年卒業 川田 紀雄 (副会長)
 - 豊島昭和二五年卒業 金子 誠一
 - 豊島昭和三〇年卒業 石塚 久

- 豊島昭和三三年卒業 大中 裕子
- 追分昭和二六年卒業 宮坂 庸也
- 追分昭和三二年卒業 西山 マサ子
- 小金井昭和三九年卒業 藤田 由美子
- 小金井昭和四二年卒業 菅沼 和江
- 小金井昭和五一年卒業 野久尾 悟

監事

- 小金井昭和四一年卒業 佐々木正隆
 - 小金井昭和四一年卒業 高木 織江
 - 小金井昭和四五年卒業 丸森一寛
- 二〇一一年には小金井一期の昭和三九年卒会員がなんと還暦を迎えます。小金井生が活動を任される形を早く作っていかねばなりません。

〔会長あいさつ〕 小金井化への橋渡し

新会長(第二代) 金子修也

昨年十一月の総会にて役員改選があり会長に任せられました。微力者ではありますが努力してまいり所存です。会員各位・関係各位には、お力添え、会への積極的ご参加、ご指導ご鞭撻のほどをお願いする次第です。

総会での就任挨拶でも申し上げましたが、今任期中の私のミッションは、小金井出身役員および会員を活動力の中心にした運営へと転換してゆく、基盤構築にあると任じております。

●三校一体化を果たせたこれまで

豊島・追分・小金井の同窓会が合流して立ち上げた「撫子の会」は、その初期段階を、豊島ご出身の藤田暉夫初代会長のもと、そのお人柄とご尽力によって、すでに三校一体のかたちを成し得たといつてよいでしょう。

その「撫子の会」において、豊島校は明治からの歴史を担保しつつ、会員数も行事参加者数も多く厚みを形成してきました。追分校は存在年数が短く会員数も少ないかわり、会報や行事ほかの企画や制作の実働コアとなつて、フットワークのよさを示してきました。小金井校出身役員は母校との窓口となり、会務推進のエンジン役を果たしてきました。これらが三校一体化の力として働いてきたといえます。

●小金井を中心に未来に広がる

しかし今後は、会員構成において、豊島と追分は増えることなく、小金井が累増し中心になってゆくことはいうまでもありません。数のみならず活動においても、もはや小金井出身会員中心の体制にシフトしてゆく段階にきています。

イメージというなら、「豊島校を頂点とする〔歴史〕の下にある撫子の会」から、「未来に広がる〔小金井校〕の上にある撫子の会」へと、できるだけ早期に転換・成長させることです。

豊島・追分校出身者がすでに高齢者となっているいま、このシフトチェンジを進めないと、社会の現役世代とさらに初々しい世代から成っている小金井校出身者が、撫子の会から離れてゆくおそれがあります。この転換の推進が、追分校出身で第二代会長をつとめる私のミッションであると認識しています。

そのため理事会は、つぎの具体的課題を基本方針にして取り組んでまいります。

●四つの具体的課題Ⅱ基本方針

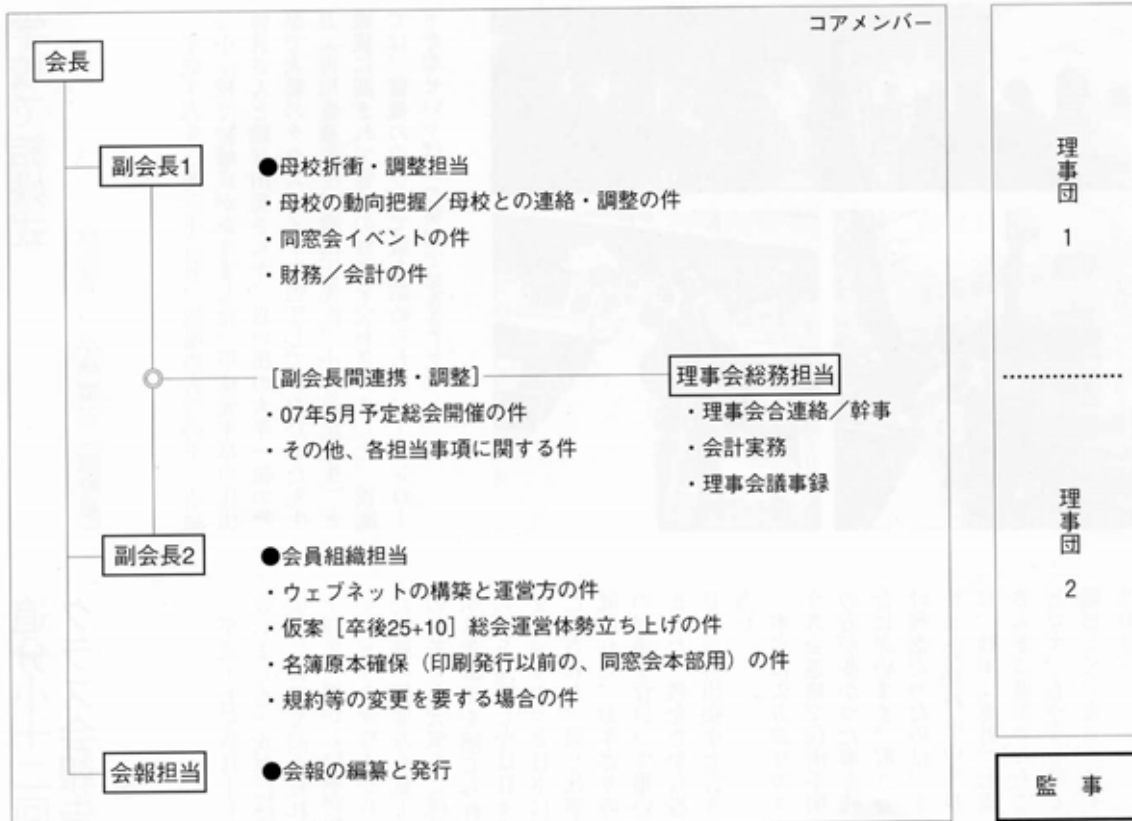
- 1・平成十九年五月に開催する年度通常総会を時期的目標にして、「撫子の会ウェブネット（ホームページ）をメンテナンス体制づくりをふくめて本格的に開設する。
- 2・小金井出身会員の参加体制を組み立て組織化を図る。
 …その具体案の一つとして、卒後「二五年十年の期」による「総会開催担当輪番制」の導入を図る。
- 3・これらのため必要な母校との円滑な連携につとめる。
- 4・執行機関と会員間、会員相互間における広報コミュニケーションを関連にする会報のあり方を、前記の「へい」と勘案して検証し、実施してゆく。

●新たな理事会体制で運営

前記の実行を図るため、今任期からは副会長二人制を敷き、図にあるようなコアメンバー体制を組み、これを中心に運営し、機動力を高めてゆきます。この体制にもとづいて、理事活動はすでに始動しています。コアメンバー以外の理事は、課題別にそれぞれの専門や得意を生かして臨機応変に参画してゆきます。

こうしたなかから、大方針である「小金井化」のかたちが見えてき、進展するものと思えます。

以上をもって会長としての就任挨拶と方針紹介とさせていただきます。なにとぞ新理事会を暖かく応援してくださいませよう、お願い申し上げます。



第六回総会のお知らせ

次回も小金井の母校での開催を予定しています。
 平成19年5月19日土曜日午後
 詳細については改めてお知らせいたします。是非、今から御予定に入れておいて下さい。

お知らせ

2007年春にはホームページをオープンするべく、準備が始まっています。乞う、御期待。
 それに引き続き、会員名簿の改訂作業に入る計画を立てています。乞う、御協力。



佐々副会長・藤田前会長・金子新会長・川田副会長



学校で結婚式

報告者 小林道正（副校長）

平成十八年三月二十五日。快晴の青空の下、小金井小学校で結婚式がありました。平成元年卒の片山博貴さんと磯部由美さんが、思い出の六年一組の教室で大勢のクラスメイトと担任していただいた先生方（市川直道先生、横山正先生、小林道正先生）と親族に囲まれて誓いの言葉を交わされました。校庭では、薔薇の花びらで敷き詰められたパーズンロードを幸せいつばいの笑顔で歩きました。



片山・磯部両家結婚式

追分小十二回二組 クラス会報告

畑 敬子（昭和三十二年追分卒）

平成十七年四月十七日、還暦祝いクラス会を開催致しました。次年には卒寿を迎えられる小川先生、前年に喜寿を迎えられた岡本先生をお迎えして合計十四名の懐かしい顔が揃いました。

シビクタワーから、すっかり姿を変えてしまった本郷の街並みを見下ろしての近況報告。両先生方のお若くお元気な様子には一同びっくり。もはや余り年齢差を感じられなく成ってしまった我々も、大病を克服し今は日々感謝、企業戦士で長く世界中を漂ってやっと日本に戻った、大切なお連れ合いを亡くされた、同じ仕事を続けている、新たな仕事に就かれた、お年寄りのお世話、子供の結婚等々沢山の物語を背負って集いました。残念ながら当日は海外出張中と言う方も。

本場に久方ぶりのクラス会連絡で住所不明の方が多かった事を残念に思います。取り分け残念だったのは、クラス会連絡中の三月に、柿本（鹿野）七重さんが逝去されたことです。もう少し早く開催していたらと悔やまれます。



十一月の至楽荘旅行

川田紀雄（昭和四十一年小金井卒）

鶴原でのクラス会を企んでいる学年も多いのではないかと思います。我々四十一年卒の有志、わざわざ季節外れをねらって行って来ましたので、ご案内かたがた報告を...

インターネットで「至楽荘」を検索するとすぐに我々の至楽荘が出て来ます。全部の記事が豊島師範に関連しています。他には至楽荘というのはいないですね。その中に利用期間として五月から十一月までが示されていましたので、終了間際、十一月のある土日を宿泊申し込みました。僕らの知らない冬の海と海の幸、そして長い夜...、水着の心配をしなくてよい。というのもあったかもしれません。水泳自慢にはちよつと不満だらうけどもう裸に自信ないしなあ。自慢話だけ、というところで。

土曜日の午後二時、東京の地下駅に十五人ほどの仲間が集まりました。今は特急わかしおを使うと二時間弱で鶴原の駅です。もう至楽荘までの道を忘れていたメンバーを先頭にしばしの探検気分。なぜか地元の高校生が荘まで道案内してくれたのですが。浜辺の散歩、節穴はなくなっちゃったけれど広いお風呂、心づくしの地魚のお料理、懐中電灯で行く夜の大木台、背を縮めて歩く洞窟、そして門限のない夜の宴会へと続きます。説明不要ですね、どの同窓生も得意技満載で楽しめるに決まっています。

紙面の関係で突然ですが、冬もよかったですよ。という宣伝でした。なお、母校では男子の赤ふんが希望性になったので心配していましたが、装着訓練だけは生き残ったようです。でも、ゆるふんかな。



若藤会

大中祐子（昭和三十三年豊島卒）

私達は豊島小学校第四十七回（昭和三十三年）卒業生で、担任は伊藤一郎先生です。先生は豊島小学校で、第三十八回卒業（昭和二十四年）「すみれ会」、第四十四回卒業（昭和三十年）、第四十七回卒業「若藤会」、第五十一回卒業（昭和三十七年）「二の子会」と合計四学級百八十一名を受け持たれました。撫子のご縁で、この四学級が伊藤一郎先生を囲む会を計画して、「伊藤学級合同のクラス会」という縦の会を作り、平成四年、平成九年、平成十二年と三回ほど会合を開きました。同期会は平成三年に一回だけだと思えます。

我々の若藤会は六年間、伊藤先生に受け持っていただき、毎年先生の誕生月の五月にクラス会をしております。場所は、すでに小学校の面影すら残っていませんが石碑のある池袋にこだわり続けています。年に一回池袋に足を運んでくれる人、通勤で通過している人達が今年も五月二十日に池袋メトロポリタンプラザ七階に集合しました。先生は八十五歳を迎えたとは思えないほどのお元気なお姿で出席して下さり、懐かしい思い出話に楽しい一時を過ごしました。



腰山学級

後藤公子（昭和三十二年追分卒）

追分小学校を卒業して、早四十九年が経ちました。クラス会は、仕事、転勤、子育て等多忙な時期は、十名足らずの事もありますが、腰山先生を囲みながら、三、四年毎に聞く仲の良いクラスでした。

今回は黒田氏と私が幹事となり、平成十八年十月二十一日にパレスホテルで開催しました。クラスの半分の二十二名の出席で盛会でした。

六〇才を越えた私達は、会えば男子は「君」で、女子は「さん」付けで呼び合ひ、すぐに追分小学校のクラスに戻ります。

久しぶりの参加の方も、いつもいらして下さる方も、懐かしいクラスの思い出話に盛り上がり、欠席者の近況も報告して、ゆったりと楽しい時を過ごしました。

腰山先生は残念ながら、三年前に他界されました。

平成十九年は、卒業五十周年になるという理由で、連続してクラス会を開くことを決めた程の気の合う仲間なのです。

腰山学級の皆様が健康で、いつまでもこの灯が続きますようにと祈ります。



昭和五十八年卒業の同期会

報告者 小林道正（副校長）

平成十八年十一月十一日。小金井小学校の食堂で開催しました。小学校と中学校の合同の同期会で、中学校からは橋上一彦先生、内海淳先生。小学校からは武田弘先生、環廣八郎先生、小林道正先生。参加者は同期生六十名。ジュニア二十五名。一次会是小金井小学校の食堂、二次会は国分寺のお店、三次会以降は不明。

午後二時から五時までの三時間があつと言う間に過ぎてしまいました。食べるのも飲むのも忘れて、ずうっとおしゃべりに夢中でした。懐かしい先生方にお会いできたのはたいへん嬉しかったです。一次会が昼間だったことと、幹事の方が「キッズコーナー」を作ってくださったので、子どもと一緒に参加することができました。そして懐かしい学校をゆっくりと見学することができました。とっても楽しかったです。ありがとうございます。うござい



編集後記

編集担当・西山マサ子

十月初旬、小林副校長より同窓会へ、本校を卒業されました倉本聰氏の講演がPTA主催で行われるとの連絡がありました。

それでは同窓会の皆様にもお伝えしなければと取材し特集しました。

普段の生活では忘れられていたことを改めて思い知り有意義なお話を伺うことができました。

会長の交代にともなう金の金子新会長のメッセージ、今後の同窓会のあり方を分かりやすく示して下さいました。

同期会・クラス会のお便りをお寄せ頂きありがとうございます。今後も写真などを添えてお寄せ下さい。

「撫子の会」会報・第八号

発行 平成十九年一月

この号の編集担当

金子 修也（昭和二十五年追分卒）

西山マサ子（昭和三十二年追分卒）

印刷 山信印刷（山佐福栄・昭和二十八年追分卒）

投稿・寄稿問合せ先

西山マサ子 電話・ファクス 03-3815-9619

メール kmyi@icn-civ.ne.jp

同窓会事務局

東京学芸大学附属小金井小学校内

住所 〒184-8501

東京都小金井市貫井北町4-1-1

電話 042-329-7823 ファクス 042-329-7826

撫子の会郵便振替口座

番号 00100-8-709121

加入者名 撫子の会